

西村

巻頭
インタビュー

幸夫

都市工学者
神戸芸術工科大学教授
東京大学名誉教授

大学生時代、町に出て 町から学ぼうと思った

渡邊 町並みの保存と修復と開発のあり方、そこに観光という要素が加わるとどうなるのかなど、長年調査されてきた中から、具体的な例をあげて教えていただきたいのですが。

西村 私は大学は都市計画の専攻、都市工学科というところですよ。学生時代は70年代の半ばくらいで、教えている先生は皆開発志向でした。建設省（現国土交通省）でバリバリやって来た人とか。私の先生は大谷幸夫先生で、その先生は丹下健三先生ですから、丹下研究室の流れなんです。「東京計画1960」という、東京湾を空中都市化してしまうみたいなか、い夢を語るのが偉くて格好いいという、高度成長期の最後ですからね。

私はそれにすごくなじみなくて、そんなことをして本当に町はよくなるの

か、と考えたんです。でかい物を作ったり、新しくすると、今まで住んでいた人が追い出されてしまうわけですよ。古い物を大事にするということがないし、皆の意見を聞いて考えるというのではないんです。それで私自身は、違う道はないかと考えていたんですが、そういう講義は全然なかった。そこで、町に出て、町でいろいろな動きが起きていたから、そこから学ぼうと思ったんです。

その1つが奈良県の今井町でした。今井町にも保存運動があつて、当時ちょっと町並みを守ろうという運動が日本でも少しずつ起きてきて、そういう人たちがネットワークを作つて、情報を共有しようという頃でした。

「全国町並みゼミ」というのが始まって、第1回は1978年（昭和53）、愛知県の有松・足助あすけであつたんです。今井町のメンバーも加わつて作られた組織

町はこうして元気になり、
自信を持ち、再生していく

聞き手●渡邊直樹 本誌編集長 写真●島崎信一

都市工学者の西村先生は学生時代から、地域の歴史を生かした町並み保存、まちづくりのために地域の人々とともに調査・活動を続けてきた第一人者だ。歴史的環境を守りつつ、町が元気になるために、地域の人々ができることは何か？
そしてまた外部の人間の役割とは？

Yukio Nishimura

1952年、福岡市生まれ。
東京大学工学部都市工学科卒、同大学院修了。
工学博士。1996年より東京大学大学院教授。
現在、神戸芸術工科大学教授。
東京大学名誉教授。専門は都市計画、
都市保全計画、都市景観計画など。
著書に『県都物語』『都市から学んだ10のこと』
『都市保全計画』など。